【 111 】

氏名	松 浦 一 彦
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	博 乙 第 2095 号
学位授与の日付	平成2年 3月28日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**正常ラット肝由来上皮様細胞の起源**
論文審査委員	教授 辻 孝夫　教授 赤木忠厚　教授 粟井通泰

学位論文内容の要旨

ラット肝由来上皮様細胞は肝ないし胆管の前駆細胞であろうと考えられているが，正常肝臓組織内における存在のあり方についてはいまだ不明瞭な点を多く残している。新たに分離した10系のクローン化正常ラット肝由来上皮様細胞系が有する属性を検索し，生体内正常肝臓組織構成細胞種と比較検討したところ以下の結果を得た。(1)10系のcloneは形態学的にdense type，diffuse typeおよびintermediate typeの3型に区別された。(2)上記3型についての無血清培養上清のSDS電気泳動による解析から，dense typeには分泌性蛋白質群に一定のプロフィールが，diffuse typeおよびintermediate typeには類似性はあるが各種のプロフィールが見られた。(3)上記分泌性蛋白質群のプロフィールは間葉系細胞系とは異なっていた。(4) cytokeratinは10系のcloneに共通して認められた。(5)上記cytokeratinは正常肝臓組織内の胆管構成細胞および肝小葉辺縁部の細胞に認められた。(6)成熟型の肝実質細胞および胆管細胞の機能はほとんど認められなかった。(7)初代培養での形態および増殖能から肝類洞内皮細胞とは異なっていた。以上の事から，これらクローン化肝由来上皮様細胞系はラット肝臓組織内で肝実質細胞と胆管細胞の接点に局在するであろうstem cell familyと考えられる細胞群由来と考えられた。

論文審査の結果の要旨

正常ラット肝由来上皮様細胞の起源を明らかにすることを目的に，新しい10系のクローン化正常ラット肝由来上皮様細胞を分離し，それらの形態学的な検討と無血清培地上清成分のSDS電気泳動や免疫学的解析を加えている。その結果，これらの肝由来上皮様細胞は肝実質細胞と胆管細胞の接点に局在するであろうstem cell familyと考えられる成績をえており，新しい知見であるところから，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認めた。